



寺紋  
ひいらぎ  
終 かこみ沢瀧  
おもだか  
(通称 大関沢瀧)

# 大雄寺報

= 第6号 =

平成19年1月1日発行

発行所 黒羽山 大雄寺

〒324-0233  
栃木県大田原市黒羽田町450  
TEL 0287-54-0332  
FAX 0287-54-0330

編集発行人：住職 倉澤 良裕  
印 刷 所：タキザワ印刷



大雄寺 境内の牡丹



大雄寺 山道脇のシャガ

山門をくぐって一歩一歩階段を登りつめ、目の前に現れるカヤ屋根の大伽藍の本堂、廻廊に囲まれた境内、静寂の中に心の引き締まりと清々とした落ち着きを得る。

木々の緑色は、落ち着きを取り戻すカラーセラピー効果であり、「鳥の鳴き声」「水のせせらぎ」「静けさ」は、自然の音楽。そして木々の緑の香りは、アロマセラピー効果である。

大自然から視覚・聴覚・嗅覚・呼吸を通じて私たちの体に安定をもたらしてくれる。「素朴」「静寂」「清潔」の頭文字の三つの3Sは、心の平静を取り戻してくれる。

最近脳を鍛えるとか脳を科学する話題が新聞やテレビで多く取り上げられています。脳から出ている脳波は、心身状態により異なるようです。とくにリラックスした気持ちでいる時の脳波は $\alpha$ 波で、川のせせらぎや鳥の声を耳にすると $\alpha$ 波という脳波が出やすいとのことです。

最近、坐禅中の脳波を測定した報告があり、それによると、

1. 坐禅中の脳波は、目覚めているにもかかわらず、安静時よりさらにリラックスしているという状態にある。
2. 坐禅に入ると、安静時に見られる「 $\alpha$ 波」が目を開けているにもかかわらず連続して現れる。
3. 普通は睡眠中にしか見られない( $\theta$ ・シータ波)が現れ、自我意識が抑制された状態になる。

このことからも、坐禅は、心をリラックスさせるのに、効果があるとのことです。

日々の喧騒の中、時には、坐禅に親しみ、身と心のリフレッシュを・・・

# 平成十八年各種行事

## 大雄寺てらスクールを開催

午前	午後	受付（総門にて）
9時30分		開講式（本堂）
10時		坐禅の仕方の説明（本堂）
10時30分		坐禅（禪堂）
11時		拝観説明（本堂・集古館）
11時30分		昼食（精進料理）食事作法（月光館）
午後12時30分		作務（境内・堂内掃除）
1時30分		お茶の作法（月光館）
2時		閉講式（本堂）
3時30分		下山
4時		

しゃるという事に喜び、そして励ました。

私の人生を振り返るたび悲しい思い出で胸が一杯になり、つぶれそうになつた時が何度もありました。理想の自分ではなく、世の中との戦い、人間とのふれあい、に立ち向かう事が精一杯だった自分が、情けなく思いました。

大雄寺の和尚様との出会いそしてその回りを囲む方々の姿を見て聞いて、まず自分を見つめ直すという気持ちになりました。

今回私たちが得たものは、これから日常生活を送っていく上で、とても大切な課題であり、私自身の心の栄養になりました。

今回この大雄寺てらスクールに参加した理由は、子供の教育の一貫として私達親は特に深い考えもなく参加したのですが、私たち自身、本当に来て良かったと深く考えさせられてしまいまして。子供たちの熱心な姿を見ることが出来、とてもすがすがしい気持ちで参加できた事を皆様に感謝しました。

大雄寺の和尚様の人間性に驚かされました。とてもやさしく穏やかで喋る言葉の一つ一つにも思いやりやいたわりの心が伝わってきました。この冷めた世の中にこんなにも温かい方がいらっ

たました。本当に頂いてありがとうございます。

大雄寺てらスクールにて

河合 理加

僕の、夏休みの思いでは、大雄寺でいろんな事を学んだ事です。僕がお父さんに怒られる時は、いつも正座で足が痛くなるけど、坐禅は、足を組んでわっているだけなので足が痛くなかったです。でも、最後に、一回だけたたかれました。何かとても気持ちがすっきりした気分になりました。

あと、食事の作法についても学びました。最初、はしのうしろに書いてあるやつ（五觀の偈：感謝する心で食事をいただき？？？）を読みました。

最初、はしのうしろに書いてあるやつ（五觀の偈：感謝する心で食事をいただき？？？）を読みました。その時は、正座で読んだので少し足が痛かったです。それから、正座をしたままで

ますをいい、食事をしている時も、ずっと正座で食べました。お寺の和尚様は、これを毎日やっていました。立つ時は、足が痛くて少しの間座つていました。お食事のあとは、おそうじがありました。みんなで協力すると、観音様もきっと喜んで見ていてくれているかもしないし、自分の心の乱れも、整理されておだやかな気持ちになると思うので、そうじをすることは、いい事なんだと思いました。



## 大雄寺てらスクール

河合 亮樹

最後に、お茶の作法を学びました。僕は、先頭で行きました。最初何をするか、分からなかつたので困ってしまいました。そしたら、お茶の先生がていねいに教えてくれたので迷わずに歩く事が出来ました。

そうすると、お菓子をくばられ、となりの人に、さきにいただきますよ！というあいさつをするため軽くおじぎをしました。

そしてから、紙の上にお菓子を置いて、食べました。その後、お茶をだされお茶の先生に、持ち方を教えてもらいました。最初はお茶の先生に教えてもらつてもなかなかうまくいきませんでした。

なので、家で持ち方の練習をし、出来るようにしたいと思っています。

坐禅、食事、そうじ、お茶の作法をまたやってみたいですね。

## 坐禅に思う

吉崎 光徳

坐禅に対する一種のあこがれが長年なりにあつたが、いざ実際にその門をたたくというまでには、至らなかつた。

しかし今回、四月に父を亡くしその死を看取つて以来、父の魂は遺骨とともに墓に入つたのではなく、完全に自己の中に思い出と共に歩み始めているのを実感した時に、この企画「てらスクール」に出会つた。

いざ坐禅堂に入つて実際に作法に沿つてやつてみると、次から次へと沸き上る己の雜念と妄想との闘いの中に、自己をコントロールしようとする自分の姿があつた。

近づいてくる警策の打ち込まわる音。こんな風に心を乱していると打ち込まれるぞという、たわいないちょっとした恐怖心。

後から聞く倉澤御住職のお話によると、警策は罰としてではなく、あくまでも本来の自己と格闘している坐禅者に対しての励ましであると言われた。ハッさせられる一言であつた。

実人生で起こりうる人生の苦難、災難、あらゆる喜怒哀樂のすべては、宇宙の造物主（大日如来と置き換える

よい）からの私達迷える人間達に打ち込まれてきた大小さまざま人生の警策ではないのか。その最後にして万物流転のスタートに戻る「死」は、人生最大の警策ではないのか。

今年十二歳になる長男といっしょの親子坐禅会。精進料理を何とか食べ終る事が出来た長男。何とか彼なりに精進料理の糧に少しでもしてもらいたいと思う父親の私。

蝉しぐれがカヤ葺き屋根の回廊を突き抜けて、山門をくぐる私達父子を見送つてくれた。去り行く夏の日々を惜しむかのように・・・。



## てらスクール

吉崎 慧

ぼくは、そんなに坐禅に興味はなかつた。ただお父さんが勝手に応募しただけだつた。最初はそんなに乗り気にはなれなかつた。なぜかというと坐禅に対して、はたかれるのがこわいというイメージがあつたからです。

そして、いざお寺に行く時になると年齢の小さな方に合わせすすめたため、大人の方には、ご満足いた内容ではなかつたと反省しきりでございます。

親子で学んだお人や自然や物に対する思いやりの種が、たくさん地域に蒔かれ、根付き、今よりも、穏やかな世となること願っています。

そして、最後にいつも快く送り出し足をくんでいると足がつんとしびれ

てしまつた。肩をぴしつとたたかれたときには、痛みがずっとこつてしましましたが、坐禅をした後は、集中力がついて、行くときはこわかつたけど今では、いい思い出です。

親子で学ぼう一大雄寺てらスクールが二回三回と多くの回を重ね、人々か

## 「親子で学ぼう 一大雄寺てらスクール」

西岡 恵理子

大雄寺の山門を潜ると、空気が変わつていくのを感じます。何百年も、この寺をまもつてこられた神々の力か、あ

るいは、年輪を重ねた木々の精達の力なのでしょうか。

早朝という時間も手伝つて、坐禅を終えると、日々の生活の中で、私の汚れた心を少しずつ、清めてくれるような気分になります。その感覺を、他の人に伝えたくて、息子や茶の道をともに歩む方々にも坐禅をしませんか。と勧めること十年近くになりました。

今回、大雄寺てらスクールにお集まり下さった二十六名の皆様は、五歳から七十六歳と幅広く、意欲的な方々ばかりでございました。

私の担当は、お茶の作法でしたが、年齢の小さな方に合わせすすめたため、大人の方には、ご満足いた内容ではなかつたと反省しきりでございます。

親子で学んだお人や自然や物に対する思いやりの種が、たくさん地域に蒔かれ、根付き、今よりも、穏やかな世となること願っています。

そして、最後にいつも快く送り出し

てくれる家族と、作務の後の実りあるお話、美味しいお茶を用意してくださるご住職様、奥様に、感謝いたします。

親子で学ぼう一大雄寺てらスクールが二回三回と多くの回を重ね、人々から親しまれますよう祈っています。

八月二十六日にわたしは大おう寺の寺スクールにいってはじめにおきょうをとなえました。おもつたよりかんたんでした。その後にざんをしました。うごいたつもりがなかつたのにさいごにたたかれて、にどとざんはしたくないと思いました。そのあとゆうれいのえをみました。ぜんぜんこわくなかつたです。そのあとほうむつかんの中もみました。そのあと五かんのげをとなえました。あんまりとなえたくなかつたです。精進料理をたべました。おいしかったです。そのあと本堂のそうじをしました。あまりしなえたくなかつたです。精進料理をたべました。おいしかったです。そのあと本堂のそうじをしました。あまりしなえたくなかつたです。そのあとでお茶の作法を習いました。楽しかったです。そのあとでまたおきょうをとなえておわりました。ざんのほかはぜんぶ楽しめました。ざんのほかはぜんぶ楽しめました。坐禅はたたかれてなかつたです。坐禅はたたかれてなかつたからもすこしはしてもいいとおもいます。

目面 綾伽

目面 瑞花

大おうじてらスクールにいきました。

そしてまずさいしょにざんをしま

した。  
最初はいやだつたけどやつてみると

ちよつとたのしいかなつとおもいました  
たかつたです。それからまくらがえし  
のゆうれいのえを見ました。ちよつと  
こわかつたです。

そしておひるごはんになりました。  
精進りょうりをたべましたおいしかつ  
たです。ちよつと休けいじかんがあり  
ました。そのときとにんぼをつかまえ  
ました。たのしかつたです。

お茶のさほうのじかんでは、お茶を  
もつてきてくれる女の子があいさつし  
た。でもペチされたときにはちよつとい  
たかったです。それからまくらがえし  
のゆうれいのえを見ました。ちよつと  
こわかつたです。

ているのを見てすごいなつとおもいま  
した。  
一日おでらにいてたのしたつたです。



## 親子坐禅会によせて

平田 寛

八月も晩夏だというのに、大雄寺の  
山門には秋雨の気配が漂い、その深遠  
なるたずまいは、これから行われようとしている「親子坐禅会」に得がた  
い舞台を呈していた。

大雄寺の子供坐禅会は、以前には夏  
休み子供道場の一環として盛大に行われ  
ていたとのことだが、ここ暫くは跡  
絶えたままだった。  
しかし、ご住職さまの胸には、常に  
再会の念止み難く、熱い思いで語られ  
ることがしばしばであった。

今回、大雄寺の坐禅会に集う有志が、  
このご住職の思いに呼応して、実現させ  
る段取りとなつたのである。  
時世は、あたかも子供にまつわる  
「教育問題」が社会問題化しており、  
したがつて、対象も迷わず「親・子」と  
決定したのである。

それにしても、昨今の「学校教育」  
に関する問題の多発はどうしたのであ  
ろうか。

子供たちがこんなにも荒んだ環境に  
おかれたことがあつただらうか・・・。  
私は昔の子供たちのほうが恵まれてい  
たなどと極言するつもりはない。しかし、  
昔よりも少なくとも文化的な面に  
おいては、数段進歩、発展した世の中  
にあって、何が子供たちをこのように  
夢も希望もないような環境に追いやつ  
てしまつたのだろうか。私は自問自答  
している。

よく人の教育は「家庭教育」「学校  
教育」「社会教育」の三つが係わると  
いわれ、その関係のあり方がいつも議  
論的になるが、極論すれば、私は、「  
家庭教育」の方方が抜本的に問わ  
れると思つてゐる。それは、言葉を変  
えれば「躰」であり、これは一人の人  
間が自立する最低の条件であり、この  
教育の責任の多くは「家庭教育」にあ  
ると思つてゐる。しかし、昨今の児童  
に対する「躰」と称する虐待は鬼畜の  
沙汰であり、親権などという資格もない。  
したがつて、我々は坐禅を通して  
親も子も「自己」を律する体験の機会  
をもつてもらいたいと思つたのである。

今回の「てらスクール」の内容は  
「坐禅」「作務」「食事作法」「お茶作法」「  
寺宝拝観」「講話」の内容で行われた  
が、これは、昔より儒教の人間形成の  
教えである「智育」「德育」「体育」「  
美育」を加えた五育の実践の場となつ  
たと思つてゐる。

私が以前東南アジアに駐在した折、  
現地の方々から、戦前の日本教育のバ  
イブルであった「教育勅語」について  
問われたことがある。戦後日本において  
ては「教育勅語」はあくの象徴とされ、  
昭和二十三年に排除されたが、彼らの  
意見を要約すると、「実施方法には問  
題があつたが、内容的には正論であり、  
それは十二の徳目に要約され、これは  
民族・時代に関係なく教えられるべき  
ものだと思う」というものであつた。

十二の徳目とは

1 孝行	2 友愛	3 夫婦の和
4 朋友の信	5 謙遜	6 博愛
7 修学習業	8 智能啓発	
9 德器成就		10 公益世務
11 遵法		12 義勇 戦後六



てらスクールで坐禅に挑戦する子どもたち

平成18年8月30日 下野新聞掲載

思うが、現地の方々が指摘されるように「人の道」の教えとして形を変えて見直されても良いのではないかと思う。

諸兄のご意見を乞う。午後四時過ぎ、六〇〇年の歴史を越えて佇む古刹大雄寺より修業証書を手に下山される親子の皆さんの清々しい後姿を見送り、貴重な体験の一 日を終えた。

## 合掌



大雄寺で開かれた「ディジュリドゥ演奏会」

豪先住民樂器を寺で演奏

平成十八年五月二十八日  
ストラリアの原住民アボリジニによる演奏会を開催しました。

豪先住民樂器を寺で演奏

平成十八年五月二十八日 下野新聞掲載

## 大本山總持寺参拝の旅

大本山總持寺参拝の研修旅行を実施しました。



大本山總持寺参拝記念 平成18年6月27日 大雄寺本山参拝団

## 栃木県立美術館企画展 「とちぎ美術探訪」見学を実施

平成17年10月29日より12月10日まで開催された、栃木県内19館の美術館に所蔵される代表的な絵画が一同に展示する企画展、大雄寺集古館からは絵師貞綱筆「釈迦涅槃図」が公開されました。



## ハープ演奏会

満月の夜ライトアップした本堂でハープと小鼓の演奏会を開催されました。



### 静寂な境内にハープ響く

#### 大田原 大雄寺でコンサート

【大田原】東京都世田谷区在住のハープ・セラピスト小倉香子さんがこのほど、「満月の夜」チャリティーコンサートを黒羽田町の大雄寺(倉良庄職)で開いた。約百五十人の聴衆が、静寂な暗闇に包まれた境内に流れる美しいハープの音色を堪能した。小倉さんは京都府出身で、一九八四年からライフルとして胎教コンサートを実施。満月の日を送っていた。

平成18年9月14日  
下野新聞掲載

明かりが消され、ハープは人間の情緒が交わり心が置かれたステージだ。これがライトアップされれば、よりコンサートを開いていい。

この日はあいにくの雲

神秘的な雰囲気の中、ハープを

演奏する小倉さん

ト」を黒羽田町の大雄寺

(倉良庄職)で開いた。約百五十人の聴衆

が、静寂な暗闇に包まれた境内に流れる美しいハ

ープの音色を堪能した。

小倉さんは京都府出身で、一九八四年からライ

フルとして胎教コン

サートを実施。満月の日

を送っていた。

平場した人たちが演奏

月夜で聴き入り、一曲

終わごとに大きな拍手

が沸騰した。境内の

月夜で聴き入り、一曲

終わごとに大きな拍手

&lt;p

# 大雄寺 境内の花木

## 牡丹

廻廊に囲まれた境内に約三百株以上の白、赤、ピンクの牡丹が五月上旬には開花し、花の香りが境内をやさしく包み込んで、心が安らぎます。



## 蓮

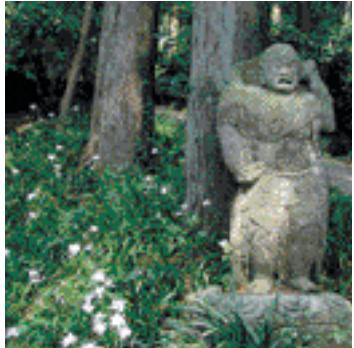


庫裡の前の蓮池に白やピンクの花が七月から八月にかけて開花します。

蓮の古名は、蓮の実の入った花托（蓮房）の姿が蜂の巣に似ているところから「蜂巣（はちす）」と呼んでいたが、平安後期頃から現在の「蓮」と改名されました。

山道沿いの杉木立の下にシャガの群生が見られます。県内でもこれほど群生は珍しく、五月上旬の開花時は山道の坂が真っ白になり、流れ落ちる滝の水しぶきのように見えます。

## シャガ



- 普通の花はまず花が咲いてから実をつけますが、蓮は花をつけると泥の中に生じ汚れなく、幽香を漂わせる蓮の花は、清浄・柔軟・可憐から、他の植物にはない特徴があることから仏教の象徴的意味を持つものとなっています。
- 泥の中でも成長し根を張り、清楚で美しい花を見せてくれます。

同時に実を中に詰めた苞が出てくる。このことから蓮は、過去・現在・未来を同時に体現しているとされます。

## 多羅葉（タラヨウ）別名・はがきの木

境内の鐘楼堂入り口にあります。ツバキの葉のように厚く光沢のある葉で、葉の縁には小さな尖った鋸歯があります。多羅葉（タラヨウ）の葉の裏面を傷つけるとその部分が黒くなります。これを利用して文字が書けるところから、はがきの木と呼ばれ、現代のハガキ（葉書）の語源になったとも言われています。



ハガキの木



文字を書くことができます。

経文を書くのに使われたヤシ科のタラジュ（多羅樹）にあやかって多羅葉（タラヨウ）としたようです。また、

ことはすでに戦国時代（五〇〇年ほど前）には武士が便りに利用していたと

も言われています。

## ハンカチの木



ハンカチの木



ハンカチの木は、中国南西部（四川省、雲南省など）の山地に生育し、フランス人のアルマン・ダビッド神父（一八二六～一九〇〇年）が発見しました。神父の名をとり「ダビディア」とつけられた珍しい品種です。白いハンカチに見える部分は葉が変形した苞（ほう）で、成長の過程で緑色から乳白色に変わります。葉の間から垂れた風情が、ハンカチが風になびいているように見えることからこの名がつけられました。四月下旬から五月上旬にかけて咲きます。

## 菩提樹

経蔵前と鐘楼堂入り口にあります。お釈迦様が悟りをひらかれたのが菩提樹の木の下と伝えられています。

中国原産で初夏の頃、小さく黄色っぽい、目立たない花が咲きます。お釈迦さまがその下で「悟りを開いた」ということで知られ、その由来から寺院の庭園などによく植えられています。しかし、釈迦が実際に悟りを開いたのは桑科で熱帯樹の「インド菩提樹」ではありません。日本にある「菩提樹」とは違うようです。

今から八〇〇年以上も前、仏教の禅宗の臨済宗を広めた栄西禅師が中国の天台山に行き、そこに植えられていた菩提樹を、葉の形がインド菩提樹に似ていることから本物のインド菩提樹だと思って日本に持ち帰り「菩提樹」とされたという説があります。

覚樹（カクジュー）とも道場樹とも呼ばれ、サンスクリット語でピッパラと言います。

## 白雲木

本堂と禪堂を結ぶ回廊の横にあります。

別名ステイラックスという。ギリシャ語の「ステイラックス（安息香）」が語源です。この植物は、この安息香というものを産出することから名づけられています。葉っぱがかなり大きい。



## メタセコイヤ



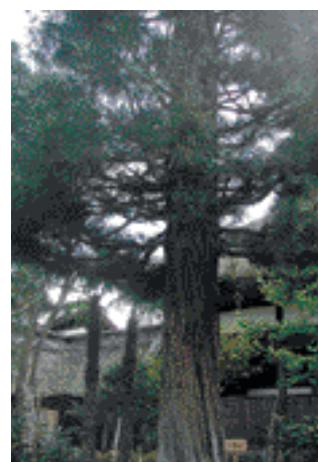
白い花が満開に咲くさまが、白雲のように見えることから命名されました。六月上旬に花が咲きます。

なり、秋に紅葉し、冬には葉が落ちます。

## 山ボウシ

総門の横にあります。

高さ五〇一〇メートルぐらいになり、幹は灰褐色で葉は橢円形。花は六～七月に開き、淡黄色で小さく、多数が球状に集合し、その外側に大形白色の総苞片が四枚あり、花弁のように見えます。果実は九月頃に赤く熟し、直径一三センチで球形で食べられます。果肉はやわらかく黄色でマンゴーのような甘さがします。花・果実・紅葉と三回楽しめます。



## 高野槇

境内の禪堂前と総門横に二本あります。

日本特産種の常緑高木で、高さは四〇メートル太さ一、五メートルにもなるものもあります。和歌山県の高野山に多いことに由来する命名です。火に強いということから防火のために昔から植えられています。高野槇は仏花として水持ちが良く、いつまでも緑が青々としているので昔から重宝されています。

平成十八年九月六日にご誕生された秋篠宮家ご長男のお名前が「悠仁（ひさひと）」親王さまにきまり、悠仁親王さまの身の回りにつけるお印（おしづるし）に「高野槇」が用いられることが決まりました。

親王さまのお印を高野槇にお決めになられましたことは、親王さまが高野槇のようにまっすぐすくとご成長されますことをお祈りいたします。

# 一口法話

## お経について

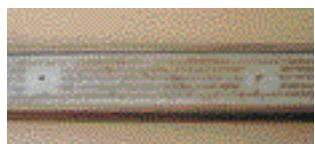
お経とは、「仏教の聖典」です。キリスト教の『聖書（バイブル）』やイスラム教の『コーラン』と同じように、仏教徒のための聖典が「お経」であります。

元来、お経は、インド原語のサンスクリット語で綴られていました。印度では中国のようく紙が発明されていなかったため、玄奘三蔵（六〇一～六四〇）が、インドから持ち帰った経文は、貝葉経というものでした。

貝葉経（ばいようきょう）とは、ヤシの葉に書かれた経文のことです。「貝葉」とは、貝多羅葉（ばいたらよう）の略でヤシ科の植物の葉に文字を書いたことから「経典」を意味します。



貝葉



経

お経は、玄奘や鳩摩羅什によってサンスクリット語から中国の文字（漢字）に翻訳されました。

玄奘はインドから貝葉経を持ち帰り、今の西安で翻訳したと伝えられています。漢字に訳された経典は、後に中国に留学した多くの日本の僧侶により伝えられるようになりました。私たちが目に見るお経は、漢字で書かれているわけであります。



輪藏

ところで、経典は写經という方法で多くの人の手元にわたることができるようになりましたが、江戸時代になってから版木によって大量生産ができるようになりました。

日本で始めて経本を刊行しました人は、鉄眼禪師という方です。鉄眼禪師は、不退転の心で集めた基金と多くの浪人の手によって一切経の版木を制作し、印刷を可能にしました。この一切経の版木は京都宇治の宝蔵院に大切に保存されています。

この一切経の版木文字は、中国の明



一切経

大雄寺の経蔵には、一切経四五〇〇巻が輪蔵内に納められています。経典を意味するところから経蔵の入り口に「貝葉」の扁額が掲げられています。この貝葉経は、左右二ヶ所に穴があ

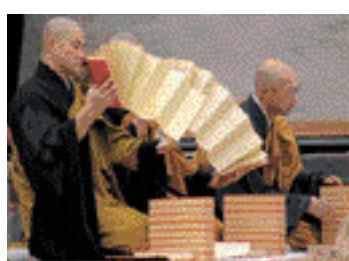
いて紐が通るようになっています。使った時は紐をゆるめ、一枚ずつめくれるようになっています。このような形式は、お経に限らず当時のインドの一般的な書物の形態がありました。この形態が後の経本の体裁となり蛇腹のように折りたたんだものになりました。

実はこの貝葉経が大雄寺の什物として保存されています。

朝で使われていた文字であることから、「明朝体」と呼ばれています。また文字数も、版木二〇列二〇語、つまり四〇〇字で統一されています。実はこれが原稿用紙の元となりました。

ところで毎年六月八日に厳修します大般若法会とは、十六善神の掛け軸を須弥壇中央に掛け、玄奘三蔵の翻訳した『大般若波蜜多經』六百巻を十数名の僧侶により転読して、国土安隱・除災招福を祈念する大法会です。

たくさんのお経が収められる蔵を経蔵といいます。栃木県内には三つの経蔵がありますが、その一つは大雄寺にあります。この経蔵は、輪藏という回転式の八角形の書架に木版一切経四五〇〇巻の経典が納められています。木版一切経は、中国明清時代の経山寺版であります。この輪蔵を回転させることにより功德を得ることができます。木門をしています。経蔵、輪蔵、一切経とも栃木県文化財指定を受けています。



大般若法会

般若心経には  
どんなことが  
書かれていますか？

まずお経は、インドへ仏教の勉強にいった三蔵法師（玄奘）がインド原語（パーリ語）を中国の漢字に翻訳したものです。中国の漢字に訳すとき声を出して読みやすくし、また、インド原語（パーリ語）に近い発音をそのまま漢字に当てはめたことばなどからできています。

般若心経の正式名は「摩訶般若波蜜多心経」といい、「摩訶般若波羅蜜多」はインド語で（マハーブラジュニヤー・バラマターラ）「心」（ブリダヤ）、「経」（スートラ）といった具合となります。このようにお経は、いろいろなことば

が混じっています。

「摩訶」は「マハー」で「大きい」

「勝れている」という意味です。「摩訶」

「不思議」などで普段良く使われますね。

「般若」は「プラジュニヤー」で「智慧」

「智慧」という意味です。お酒を「般若」

「若湯」などと言って、適量にいただく

お酒は「智慧の水」で心身ともに健康

に良いとされていますね。

「波羅蜜多」は「パーラミター」で「到彼岸」と訳され「向こうの岸に行き着いたこと」という意味になります。

「心」は「フリダヤ」で「心臓」という意味で、「仏さまが一番いいたかった大切なこと」という意味です。

「經」は「ストラ」の訳で「常に変わらない真実の教え」という意味です。

「摩訶般若波羅蜜多心經」という題名は、「仏さまが実現された偉大な智慧の心について説かれた教え」というような意味となります。この「仏さまの智慧」を私たちの一生のみちしるべとして生きていくことなのです。

般若心経は二六二字の短いお経ですが、「空」とか「無」という語が多く使われています。私たちは、ものごとをとかく絶対視し、とらわれ、こだわり、かたより、本質を離れて迷うのが常であります。

とらわれない。こだわらない。かたよらないの「智慧の教え」の生き方が説かれています。

## お寺にとつて「檀家」とはどういう存在ですか

檀家は日本特有のもので、他の国にはありません。そもそも檀家制度は、江戸時代に各家の宗派・寺院を決め、身分証明などを発行することから、キリスト教対策の一環として、いずれかの寺院の檀家として登録されるようになりました。

檀家とは「檀那の家」を縮めたものです。檀那（だんな）とは、インド原語（サンスクリット語）のダーナを音写した言葉で「施しをする・布施する人」という意味です。

檀家のご先祖の供養、葬儀を執り行う寺院のことを菩提寺といいます。檀家は菩提寺に参拝し、諸行事に参加し、仏の教えを信じ、仏道を実行し、かつ、菩提寺の護持につとめます。菩提寺は檀家と菩提寺は互いに親密な関係を保ちながら信仰を深めていくことが大切であります。したがって、檀家の家族と菩提寺の住職や寺族（寺院の家族）とは深い信頼関係にあることは当然のことであります。

檀家制度は一家や一族が同じ信仰を持つことから、家の結束が強められ、絆を大切にすることとなり先祖崇拜という信仰により安心を得、繁栄を願い、一家の信仰生活が受け継がれてきました。

しかし、戦後、家制度がなくなり、個人の自由が叫ばれ、核家族、少子化、生涯独身が進み、地域とのかかわりや親族との縁が希薄になった昨今、檀家と菩提寺との関係も疎遠になりつつあります。

檀家は憲法で認められていますから、自分の信仰を持つことができます。しかし、先祖代々信仰してきた宗教を選ぶことが大切になってきました。信頼の自由は憲法で認められていますから、自分の信仰を持つことができます。しかし、先祖代々信仰してきた宗教を選ぶ一度深く勉強して、自分の宗教を選ぶことが大切になりました。

説法（たいきせつぽう）だったからなのです。

待機説法とは、相手の気質や能力、その時の悩み事に合わせて教えを説くということです。

それは、たとえば、山に登るのに、いろんなルートがあるのと同じように、すぐれた体力と技術があるものは、険しくとも早く頂上へ行ける道をゆくでしょう。

体力と技術に自信がないものは、時間はかかるけど緩やかな、易しい道を選ぶでしょう。それと同じことで、その人の理解力、能力によって、覚る道筋が分かれています。



## 仏教には、どうしていろいろな宗派があるのですか？

日本には、数多くの宗派があります。真言宗・天台宗・浄土宗・淨土真宗・臨済宗・曹洞宗・日蓮宗など

があげられます。なぜ、こんなに宗派が分かれてしまったのでしょうか。

## 天国と地獄について

ある人が地獄を見てきた時はちょうど食事時でした。

食堂に入つてみると、驚いたことに、地獄とはいえテーブルに中華料理のように並び、どれにも沢山の山海の珍味が山のように盛られておりました。

すばらしいご馳走です。

さて、テーブルの両側に座っている亡者たちを見ると、みんな骨と皮ばかりにやせこけ、目は滲み真っ青な顔をしておりました。変だなあ、こんなにご馳走があるので、なんでこんなにやせ衰えガツガツしているのだろうと不思議に思つてよく見ると、やはり地獄。片方の手がイスにしつかりとくくりつけられている。それでも一方の手にはスプーンがくくりついている。しかも一m以上もあるスプーンである。

なるほど、遠くにあるご馳走も、これですくい上げができるのだなと、感心しました。

やがて食事の合図の鐘が鳴り、食事が始まりましたが、長いスプーンで物をすくいあげるまではよかつたが、いざそれを口に運ぼうとすると、スプーンが長くてうまく口に入らない。どうしても自分の口にご馳走が入らない。

目の前にたくさんご馳走がありながらに入れられない。それは、まさに地獄の苦しみです。あまりにもひどい光景を目にした。

今度は天国に行つてみたそうです。やはり食事時で、しかもなんと地獄と同じよう片方の手にはイスにしばられ、もう一方の手には一m以上の長いスプーンがくくりつけられていたそうです。

しかし、不思議なことにみんな血色が良くニコニコとしていたそうです。どうしてだろうと思ってみると、鐘の合図で食事が始まりました。

さすが天国の住人。自分の口に運ぶには長すぎるスプーンも、向かいに座っている人の口に運ぶにはちょうど良い長さ。相手にご馳走をあげているんです。楽しく美味しそうに食べているではありませんか。

環境は同じであっても、そこに住む人の心構えや生活態度如何によつては、天国にもなり地獄にもなるんですね。何でも自分だけ自分さえよければ…という自己中心的な生き方で生きる社会が地獄。

与え施し他を思いやる心で共に生かされている社会、これが天国。天国と地獄は、いま、ここに自分の足元にあるのではないでしようか。

お葬式でいただいてきた生花は、仏壇に飾つてもいいのですか？

会葬のお礼としていただく生花は、生け花などに使うのではなくご仏壇にお供えすることがよろしいでしょ。

大雄寺では、本堂のご本尊や境内のお地蔵さま、観音さまなどにお供えしています。



## 「立春大吉」「鎮防火燭」とお札について



大雄寺ではご年始として檀信徒の方々に授与しております。このお札は、曹洞宗だけにあるお札で、他宗にはありません。

とあります。お花を供えることは、まごころを供えることあります。

「立・・」の上に四方伊点(△)を

打つ、これは東西南北の大吉祥伊点で、四方に向けて吉祥を生み出す意味があります。

●立春大吉は家門繁栄を祈るお札であります。

灯明、浄水、飲食（おんじき）の五つを言います。

薰り高い香や線香を供え、お水を上げ、明かりを灯し、お花を供えます。

お花には正面と背がありますが「仏さまのほうへ背を見せて供えるのは正しいのでしょうか？」などと尋ねられることがありますが、お花は、仏さまの座を莊厳に飾るものですから、正面から見て美しく見えるようにお供えするのが正しいのです。

ご仏壇のまつり方として、向かって右に灯明、中央に香炉、左にお花をお供えします（三具足）。また、中央に香炉、左右に灯明一対とお花一対をお供えします。この場合を五具足といいます。

「・・火燭」の「火」の字を小さく書き、鎮火の第一は水ですから「火」の字を水のように書き、「燭」の字の火へんを虫へんに書くなどして火を伏せる意味をもっています。

この水点は、水をとどめておくことで四方水で火防札が常に守られています。このように全文字が火伏せになつてゐるというありがたい書き方になつてゐます。

このお札を貼る場所は、家の玄関入り口に向かって右に「立春大吉」、左に「鎮防火燭」を対にして貼ります。

が大切です。買い求めたお花に限らず、丹精込めて育てた庭のお花や野の花を

ご仮壇に供えることは、なお結構なこ

# 栃木県文化財指定大雄寺建築物（本堂、禅堂、庫裡、総門、廻廊、鐘楼、御靈屋、経蔵） の国重要文化財指定に伴う調査実施の要望について

大雄寺は、旧黒羽余瀬に応永11年（1404）に創建されたが、同33年那須太郎資之と那須五郎資重との不和による戦いにより焼失、20年後の文安5年（1448）第10代大関忠増により再建され、黒羽藩主大関家の檀那寺となりました。

天正4年（1576）第14代大関高増が白旗城（旧黒羽余瀬）より黒羽城（旧黒羽前田）に移したときに、大雄寺を現在地に移築しました。第13代大関増次を中興開基、在室玄隣大和尚を中興開山として、黒羽山久遠院大雄寺と称することになりました。

現在の本堂、禅堂、庫裡、総門、廻廊、鐘楼は今なお茅葺き屋根で保存し、天正年間の姿を変えることなく今に伝えています。

本堂、禅堂、庫裡、総門、廻廊、鐘楼、御靈屋は、昭和44年2月4日栃木県有形文化財指定を受け、経蔵及び輪蔵は、昭和42年12月22日に栃木県有形文化財指定を受けています。

現在地に移築後、幾度か修理され、県文化財指定後は、県町補助事業で解体保存修理を実施しながら、今まで禅宗寺院の様式を守りながら、簡素で精神的な建築として保存しています。

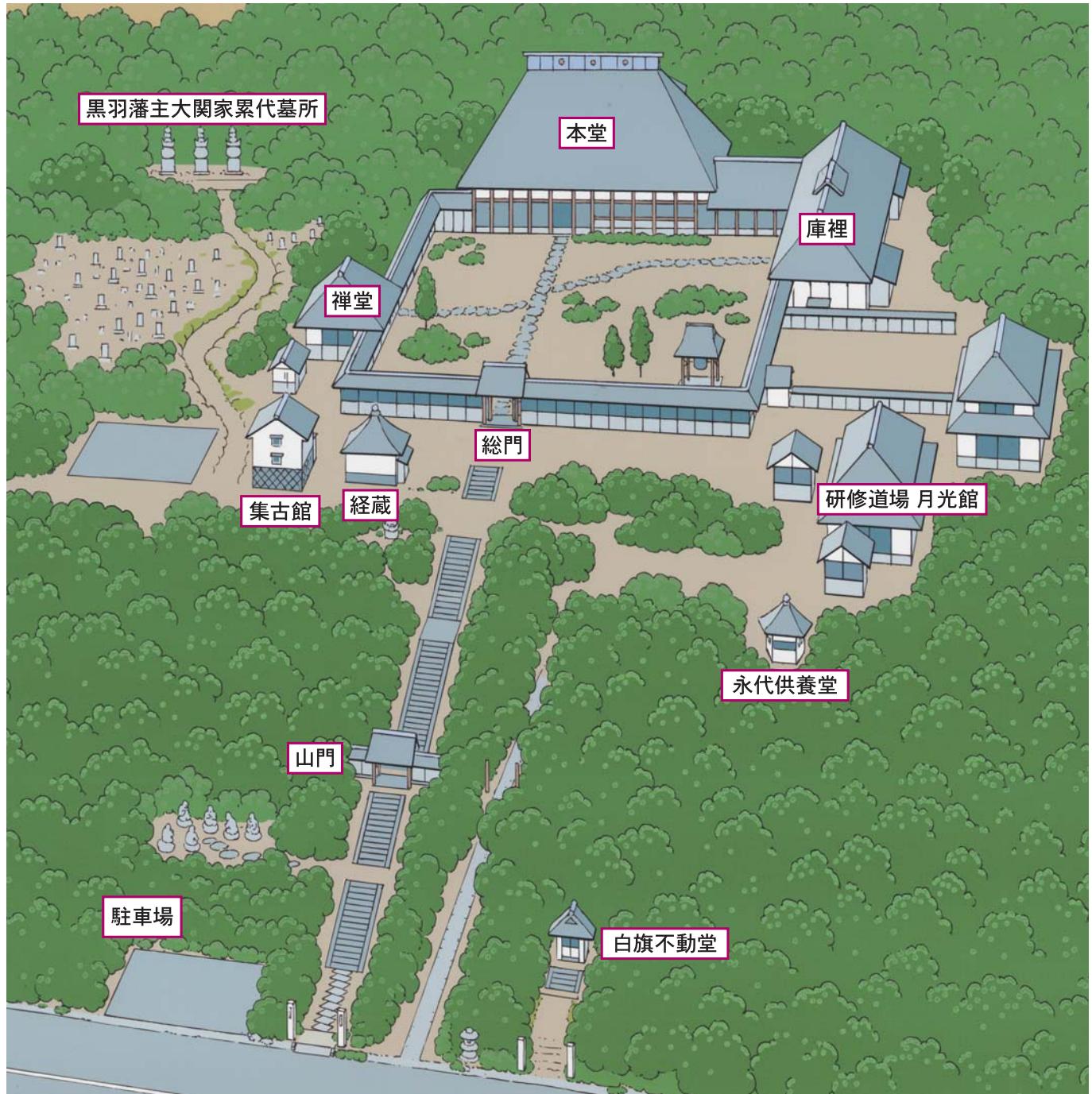
奈良、京都にはない一小藩の藩権を示す菩提寺らしい簡素な建造物で、地方的野趣の文化遺産価値をうかがうことができるものと確信しております。（黒羽藩主大関氏1万8千石の外様大名）。

建築物造営年代や禅宗寺院様式等の詳細な調査を実施することにより、多く解明され建築物全体の保存価値が明らかになると考えます。

## 大雄寺の文化財一覧

栃木県有形文化財指定		指定年月日
建 造 物	大雄寺七棟（総門・廻廊・坐禅堂・鐘楼・本堂・御靈屋・庫裡）	昭和44年2月4日
建 造 物	経蔵 附 輪蔵	昭和42年12月22日
彫 刻	木造聖観音立像	昭和38年7月1日
彫 刻	木造釈迦如来坐像	昭和45年11月20日
彫 刻	木造釈迦如来坐像	昭和45年11月20日
書 跡	木版一切経	昭和42年12月22日
絵 画	仏涅槃図	昭和45年11月20日
絵 画	楊柳観音像	昭和47年1月21日
絵 画	木版紙本著色五百羅漢像	昭和47年1月21日
絵 画	絹本淡彩広凌観瀾図	昭和45年11月20日

大田原市有形文化財指定		指定年月日
彫 刻	不動明王尊像	昭和46年2月12日
史 跡	黒羽藩主大関家累代墓所	昭和46年2月12日
絵 画	紙本著色大関美作守高増画像	平成13年6月21日
歴史資料	紙本著色黒羽城郭（居館）の図	平成13年6月21日
絵 画	板絵著色十六羅漢図	平成13年6月21日



### 平成十九年の行事予定

十一月三十一日	十二月十八日	十二月二十一日	九月二十日～二十六日	八月十三日～十八日	五月十三日	五月八日	五月一日より	三月十八日～二十四日	二月三日	一月一日より
除夜法会	觀音祈願法会	大施食会	秋彼岸会	牡丹コンサート開催	花まつり	牡丹開花	春彼岸会	大般若法会	節分会	初詣

### 大雄寺ホームページ

詳細説明、一口法話、お知らせページ、掲示板など掲載

URL

<http://www.daiouji.or.jp/>

E-mail

[ryoyu@daiouji.or.jp](mailto:ryoyu@daiouji.or.jp)